

# 行政視察報告書

令和5年8月

産業厚生常任委員会

- 1 視察実施日 . . . . . P 1
- 2 参加者 . . . . . P 1
- 3 視察先及び調査事項 . . . . . P 1
- 4 視察先の概要 . . . . . P 1 ~ P 3
- 5 調査事項の概要 . . . . . P 4
- 6 委員会としての視察のまとめ . . . . . P 5
- 7 各委員報告書 . . . . . P 6 ~ P 17

## 1 視察実施日

令和5年8月9日(水)～令和5年8月10日(木)

## 2 参加者

委員長 小紫泰良  
副委員長 廣畑貞一  
委員 小川忠市、岸本眞知子、大畑一千代、大城戸聡子  
橋本匡史、中村龍治  
議長 高瀬俊介  
随行職員 壺井初美（議会事務局長）

## 3 視察先及び調査事項

視察先 静岡県藤枝市、愛知県長久手市  
調査事項 藤枝市：“健康・予防日本一”ふじえだプロジェクトについて  
長久手市：重層的支援体制整備事業について

## 4 視察先の概要

### 【藤枝市について】

静岡県のほぼ中央に位置する。市域は、北は南アルプスを望む赤石山系の森林地帯から、南は江戸時代「越すに越されぬ」と言われた大井川の一部まで、東西16km、南北22kmに広がり、静岡都市圏に属し、静岡市のベッドタウンとなっている。

江戸時代には、東海道53次の宿場町（岡部宿、藤枝宿）として本陣や多くの旅籠が設けられ、東海道の交通の要衝であったことから、政治・経済の拠点、教育の中心でもあった。

JR東海道本線、新幹線、国道1号バイパス、東名高速道路に加え、平成24年に開通した新東名高速道路といった日本の大動脈がまちを東西に走り、富士山静岡空港へのアクセスも充実し、交通の要衝として発展している。

市の7割を中山間地域が占め、農林業の場として全国的に有名な玉露をはじめとするお茶やみかん、しいたけなどが生産されている。瀬戸川、朝比奈川、大井川流域の良質かつ豊富な水資源は、日々の生活や地場産業の振興を支えている。

大正時代に旧制志太中学校（静岡県立藤枝東高等学校）の校技としてサッカーが採用された経緯から、サッカーが盛んであるため、サッカーを核としたまちづくりを標榜している。

### (1) 人口と世帯数（住民基本台帳）

人口 141,911人（男：69,410人、女：72,501人）  
世帯数 61,526世帯

			構成比
年少人口	0～14 歳	17,257 人	12.16%
生産年齢人口	15～64 歳	80,630 人	56.82%
老年人口	65 歳以上	44,024 人	31.02%
計		141,911 人	100.00%

※令和 5 年 5 月 1 日現在

(2) 面 積 1 9 4 . 0 6 km<sup>2</sup>



### 【長久手市について】

愛知県の尾張地域に属し、東は豊田市、西は名古屋市、南は日進市、北は瀬戸市、尾張旭市にそれぞれ隣接し、東西約 8 k m、南北約 4 k m で名古屋市のベッドタウンである。

地形は東西に長く、尾張東部一帯に広がる尾張丘陵に位置し、標高は北西部が低く（最低地点標高：約 4 3 m）、南東部は高い（最高地点標高：約 1 8 4 m）。市域には一級河川の香流川（庄内川水系）を含む 1 3 の河川が流れる。

市の中央部を東部丘陵線（リニモ）が走り、西は地下鉄藤が丘駅、東は愛知環状鉄道八草駅と乗換も可能。東名高速道路名古屋 I C や名古屋瀬戸道路長久手 I C が近く、交通の便に恵まれている。

名古屋市に隣接した市西部は住宅地、商業施設などが多く都市化が進んでいる。また、市東部は自然を多く残しており、市街化された都市と自然

豊かな田園の両面を併せ持っている。

市では「日本一の福祉のまち」を目標に、住民プロジェクト「絆」を展開している。

(1) 人口と世帯数

人 口 60,894 人（男：30,139 人、女：30,755 人）

世帯数 25,522 世帯

			構成比
年少人口	0～14 歳	10,722 人	17.61%
生産年齢人口	15～64 歳	39,775 人	65.32%
老年人口	65 歳以上	10,397 人	17.07%
計		60,894 人	100.00%

※令和 5 年 5 月 1 日現在

(2) 面 積 21.55 km<sup>2</sup>



## 5 調査事項の概要

### (1) “健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて

平成25年「第1回健康寿命をのばそう！アワード」自治体部門厚生労働省健康局長優良賞受賞から現在に至る藤枝市の「健幸（健康・幸せ）」への取組について調査、見識を深めた。

藤枝市は「みんなで創る健康都市」を「守る健康（命を守る）」と「創る健康（命を輝かせる）」とで、市民・事業者・行政が一体となって推進している。

「守る健康」の特徴として、開始から40年、自治会の枠組みで30年以上、市内12支部、約1,000人の保健委員体制により自治会組織を基盤に各種健康講座、介護予防講座を開催し、健康づくりを支援している。これが市民の健康関心度の高さにつながっていると感じた。

「創る健康」では、市民の無関心層（特定健診及び生活習慣病で医療機関受診をしていない者）へのアプローチとして「楽しい」「お得」を切り口に「意識の変化⇒行動変容」を促し「健康推進」へつなげている。

### (2) 重層的支援体制整備事業について

長久手市の重層的支援体制整備事業は、①相談支援、②参加支援（ひきこもり対策）、③地域づくりに向けた支援から、①相談支援と②参加支援の一体化事業としての『N-ジョイ』の設置。②参加支援と③地域づくりの一体化としての生活支援体制事業や移動支援事業。①相談支援、②参加支援、③地域づくりの一体化としての地域共生ステーション事業などを行っている。

## 6 委員会としての視察のまとめ

### (1) “健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて

藤枝市の「保健委員」制度が、全市民の健康意識の高さにつながっており、また、市が進める多種多様な健康・予防事業の推進に大きく寄与しているものとする。

健康日本一へ向けての目標が明確で市民にわかりやすく、面白い取組であると感じた。藤枝市の取組を加東市ですぐに導入することはなかなか困難であると思うが、「健康マイレージ」など実施可能な取組もあり、委員会として調査研究していきたい。

### (2) 重層的支援体制整備事業について

加東市も重層的支援体制事業に積極的に取り組んでいるが、動きが見えていないと感じる。

長久手市は、縦割り組織の弊害を少なくするために市長直轄組織を新設され、また、厚生労働省から重層的支援体制事業のエキスパートを迎えることにより事業に対する本気度が感じられた。地域と共に考える調整役が校区ごとに配置されているなど市としての動きが見えている。

今後は、今回の視察を参考に加東市の事業内容とも比較しながら事業の進捗状況などを委員会で調査研究していきたい。

### (3) その他

藤枝市及び長久手市では、資料やパワーポイントなどを用いて視察項目の概要について、非常に分かりやすく説明をいただいた。

藤枝市、長久手市、共に非常に有意義な視察であった。

## 7 各委員報告書

### 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会

委員長 小 紫 泰 良

#### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

- ・藤枝市は、市全体で健康都市のまちづくりをされているが、もともとは、今から64年前の昭和34年に市立病院長の医師と市保健師との連絡会が月に1回開始され、各地区公民館に出向き住民と衛生教育を行うなどにより、住民の健康への意識が高まっていった地域になっている。このことが、がん検診受診率が高い、内臓脂肪症候群が少ない、成人歯科健診受診率が高いにつながっていると考えます。
- ・保健委員制度も昭和59年に自治会組織を基盤として発足しており、毎年900名以上の委員が委嘱されるなど、「自分の健康は自分で守ろう」「健康づくりを地域ぐるみで進めよう」の取組が素晴らしいと思った。
- ・市と医師会、歯科医師会とはいつでも相談できる関係性であるということであり、事務所も保健センターに設置されており、新たな事業を行う時に進めやすいと思った。
- ・新規事業として、お塩チェックで“効果適塩”事業を実施されている。働き盛り世代を対象に推定食塩摂取量を測定する検査を無料で実施されているが、減塩への取組として、一日当たりの食塩摂取量を見える化できるので、良い取組だと思った。

#### 【重層的支援体制整備事業について】

- ・重層的支援体制整備事業への取組が、縦割りの弊害を少なくするために担当するのが新設の市長直轄組織であったり、厚生労働省からキャリアの方を出向されたりしており、前向きに取り組まれていた。
- ・社会福祉協議会でも、縦割りの弊害を少なくするため、重層的支援の実施にあたり、新体制の総合支援グループを中核としている。重層的支援体制を構築するには、縦割りではない協議をする場が必要であると思えた。
- ・長久手市では地域拠点づくりとして、地域共生ステーションを設置されているが、地域の課題を地域で解決するには良い体制であると思った。

## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会

副委員長 廣 畑 貞 一

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

～「守る健康」「創る健康」⇒豊かな人生設計～

健康づくりの基本である「運動・栄養・休養」の中で、健康・食育施策等に関してカゴメ食品株式会社と包括連携協定を締結し、健康事業を推進されている。

健康情報並びに健康相談などにW e b を利用している。W e b 版利用者の男女比は男性が4割・女性6割。

地域資源を上手く活用され、その資源と連携強化を常に図るとともに、日々連携が継続していくことに工夫されている。さらに、学校教育との連携の重要性を認識され、各委員会メンバーには学校長をはじめ多くの教職員が参画されている。

なお、「めざそう！健康・予防日本一」をテーマに推進企画並びに計画推進されている全スタッフの方々の豊かで健康的な連携が日々取られているのが、大きな成果に繋がっているのが手に取るように理解できた。

最後に、15人担当職員（保健師14人・管理栄養士1人）が藤枝市の各地区に担当割され、それぞれの担当者が地区の健康づくりと管理を責任を持って実践されている。

### 【重層的支援体制整備事業について】

市長直轄組織として地域共生推進課が設置されている。行政の縦割りシステムの弊害を減少させるため「重層的支援体制整備事業」を所管されている。市内小学校区単位のまちづくりのため、小学校区ごとに地域共生担当職員（4人）を配置されている。

令和3年9月には全ての課長級以上の職員を対象に、この事業について研修をされている。

これらの取組、実践報告の中で下記の3点について視察として成果が得られた。

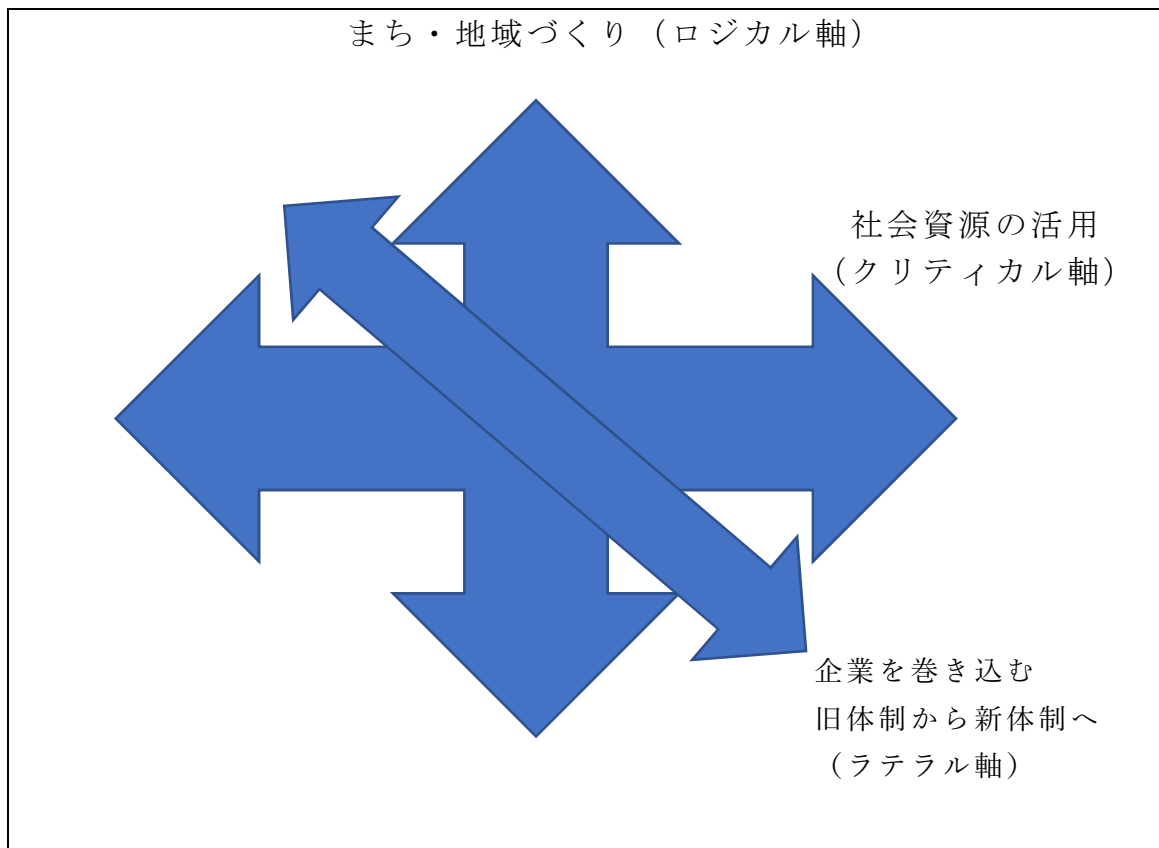
- 1 重層的支援体制整備事業を「まち・地域づくり」として位置づけされている。
- 2 社会資源の充足状況の把握と開拓開発に向けた検討を繰り返され、社会的資源を重層的支援体制整備事業の実践活動に上手く取り込まれている。



- 3 地域全体の視点と一人ひとりの個別の視点を併用されている。さらに、包括的支援の体制の構築を今後の課題とし位置づけされている。

これらの説明を受け、長久手市の「重層的支援体制整備事業構造図」が下記のように見えてきた。

＝重層的支援体制整備事業構造図＝



## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会委員 小川 忠市

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

藤枝市は「みんなで創る健康都市」を「守る健康（命を守る）」と「創る健康（命を輝かせる）」とで市民・事業者・行政が一体となって推進している。

「守る健康」の大きな特徴として市内12支部で約1,000人の保健委員体制が確立され、自治会組織を基盤に集団健診勸奨や健康講座等を開催するなど藤枝市民の健康への関心度の高さを感じた。

「創る健康」では市民の無関心層へのアプローチとして「楽しい」「お得」の切り口から「健康推進」へとつなげ地域・産業を振興、定住促進へ展開している。

アプローチとしては「運動：“楽しく歩く”習慣」「食事：“賢く食べる”習慣」「休養：“こころ安らぐ”習慣」「歯や口：“口腔ケア”でお口の健康習慣」として様々な事業を展開している。

特に「運動：“楽しく歩く”習慣」では、歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」として東海道コース、奥の細道コース等がある。また、「楽・癒・美・食・鍛」に分類したウォーキングコースマップを作成するなどして市民の健康への意識付けのためのメニューも多く考えられていると感じた。さらに、歩いた距離が見える化し、完歩者を表彰するなどしてモチベーションの維持を図っていることは事業の継続性としては大切なことだと感じた。

ふじえだ健康マイレージは2週間以上の実践として、日々の行動「運動・食事・休養・歯・体重計測＝80点」と、ボーナスとして「健診の受診・禁煙・社会参加等＝20点」のポイントを付与しポイント数により特典を設けている。

健康マイレージWebシステムは携帯電話・スマートフォン・パソコンからいつでも利用が可能で「楽しく簡単に」健康行動の「見える化」を促している。歩くことがマイレージになり、楽しいからお得へと繋げている。

藤枝市のマイレージには「ふじえだ健康マイレージ」の他に他部署においても「ふじえだ教育マイレージ」「ふじえだ交通安全マイレージ」「ふじえだ環境マイレージ」があり、市役所内横断的に取り組んでおり、相乗効果が期待できるのではないかと感じる。

藤枝市の「健康日本一」へ向けての目標が明確で市民にわかりやすく「やくしよしごと」ではない発想で、おもしろい取組であると感じた。

また、特定健康診査受診率、がん検診受診率の高さやメタボ率の低さは県内トップクラスだが令和元年度48.4%だった特定健康診査受診率がコロナの影響で令和2、3年度は36.2%と大きくダウンしたことを受け、市職員が市民約6,500人に電話をかけて受診勸奨を行うなど担当課の強い

意気込みが感じられた。

“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトは「健幸」をキーワードにいくつかの政策を効果的に組み合わせ、地域資源を効果的に活用し、その効果を積極的に発信しており、加東市においても大いに参考になるのではと感じた。

藤枝市の取組を加東市で即導入することはなかなか困難だと思うが、「ふじえだ健康マイレージ」をはじめとする「マイレージ」の導入は是非とも実施していただきたい取組であり、今回の視察を機に個人の一般質問や委員会からの提言を提案したい。

#### 【重層的支援体制整備事業について】

長久手市の年齢別人口割合は、令和2年の国勢調査で15歳未満が17.7%、15歳から64歳が65.3%、65歳以上（高齢化率）が16.9%で全国3位、愛知県内1位の低さである。また、平均年齢は40.2歳と令和5年3月1日時点で全国1位の低さである。

若年層の転入が多い地域では、自治会への加入率が50%を切り、地域のつながりが希薄になっていること、また、2045年には、75歳以上の人口が現在の約2倍に増加し、急激な高齢化、家族間のつながりの希薄化が進むことを重要課題と捉え、今のうちから、①市民の困りごとや要望を身近な地域で受け止め、つながりを作り、②地域の課題は地域で解決していく取組を、③市全体で始めていく必要があるとしている。

まずは重層的支援体制整備事業の実施に向け、令和3年4月に市長直轄組織の「地域共生推進課」を設置し市役所内の縦割り弊害を少なくした。

小学校区単位で地域共生担当「調整役」（地域とともに考える役）を配置し、併せて社会福祉協議会も組織を再編した。小学校区単位にCSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、市と社協が連携して世代や属性を超えて交流できる場や居場所づくりや地域課題解決に向けた共有の場である「地域共生ステーション」を運営している。

また、ひきこもり相談窓口兼居場所として社会福祉協議会に「N-ジョイ」を設置している。

地域とともに考える調整役が校区ごとに配置されているということは地域の人々と繋がりも深くなり、身近な存在となることで住民同士が支え合う地域づくりの構築につながっていると感じた。

厚生労働省から派遣されている地域共生推進監（部長級）から「ひきこもりや、ヤングケアラー等の課題については専門家やスペシャリストの対応ではなく、課題を分解して地域の資源（まちのおばちゃん、おっちゃん）を活用して、気軽に声掛けするなど地域の多くの人々が課題に関わるのが重要である。」と重層的支援体制整備事業推進のアドバイスをいただき、大変勉強になった。

加東市も重層的支援体制事業については積極的に取り組んでいる。しかし、

なかなか「形」としての動きが見えていないと感じる。

今後は、今回の長久手市の視察を参考に、加東市の事業内容とも比較しながら事業の進捗状況など委員会で調査していく必要があると感じた。

## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会委員 岸本眞知子

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

藤枝市の取組は学ぶべき箇所が多く、その中でも特に感銘を受けたのは以下2点である。

#### 1 保健委員制度の活用

市の職員だけではなく、市民自らが主体的に参加する体制が整えられておりその歴史は40年にもなる。市民の健康に対する意識を高め、地域ぐるみで進めることで藤枝市の取組の基盤ができていると感じた。

#### 2 P D C Aサイクルの実行

単発の政策を打って終わるのではなく、P D C Aサイクルにより進捗管理・評価を行うことで事業効果を明確に把握し、円滑な推進を実現している。

P D C Aサイクルは、継続的な計画の推進に向けて重要な要素であると感じた。

### 【重層的支援体制整備事業について】

加東市でもこの事業に早くから着目し導入しているが、まだ大きな成果を得られておらず、長久手市の取組から学ぶべきことが多くあった。

#### 1 N-ジョイの設置

市民の相談窓口である「N-ジョイ」を設置し、支援を必要としている人の実態を把握。親しみやすいネーミングと気軽に相談できる雰囲気を作り出すことで、支援の第一歩である相談への壁を取り払うことができている。

#### 2 C S Wの設置

相談支援と参加支援を担うC S Wと、地域づくりに向けた支援を行う地域共生担当が連携を取ることで、単独の支援では対応が難しいケースでの成果を上げている。複雑で複合的な課題を抱える世帯への対応では、チーム支援が必要とされるため、C S Wの存在は必要不可欠なものである。

## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会委員 大畑 一千代

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

とにかく、各種健（検）診受診率の高さ、メタボ率の低さ、健康増進のための事業、市民が自ら取り組もうとするための仕掛け、アプローチの多さに、驚かされた。

これらを支えているのが「保健委員」制度であると思われる。

昭和43年に、「保健協力員」150名の委嘱からスタートし、地区代表で構成する「健康をすすめる会」を経て昭和59年に全自治会・町内会に「保健委員」「婦人保健委員」がおかれ、「保健委員連絡協議会」が組織化され現在に至っている。市内12支部、約1,000人体制で活動され、これまでに3万人が委員の経験者ということになる。

この「保健委員」制度が全市民の健康意識の高さにつながっており、また、市が進める多種・多様な健康・予防事業の推進に大きく寄与しているものと考えている。

市民それぞれの健康は自身のことだから、まず自らが考えるべきことと思いがちだが、行政の責務である市民の安全・安心、そして幸福を考えると、一人一人の健康が礎としてなくてはならないことと気づかされた。

### 【重層的支援体制整備事業について】

名古屋市・豊田市のベッドタウンとして若年層の流入が長く続き、平均年齢の若さ（令和2年：40.2歳）で全国1位、高齢化率（令和5年：16.9%）全国3位の低さという状況の中、2045年に75歳以上の高齢者が現在の2倍になることを大きな課題ととらえ、早くから地域福祉、包括的支援体制の整備に取り組んでこられた環境を一方ではうらやましくも思い、また、福祉重視の市政推進の一貫性に敬意を表する。

市長直轄組織として「地域共生推進課」を設置し、また、厚生労働省から「地域共生推進監」（部長級）として重層的支援体制事業の「生みの親」ともいえるエキスパートを迎えている。

また、令和3年9月には全課長級以上を、12月には課長補佐級以下の職員を対象に研修会を実施しており、全庁的に事業推進に取り組もうとされていることに、ただただ、驚かされた。

## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会委員 大城戸 聡子

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

まず、市の担当職員の皆様が楽しそうに「健康マイレージ」を実施されているのが、非常に印象的でした。健康ウォーキングなど、次々にトライするメニューを考えて飽きさせないような工夫とインセンティブのうまい取り入れ方で市民の健康を無理なく、楽しんで維持できる仕組みづくりに成功しているのが素晴らしいと思いました。市役所に報告に来ることで、健康企画課との顔の見える関係も築くことができますし、外出のきっかけとなる部分も大きいと思われまます。来庁が無理な方にも郵送受付手段を講じており、そのきめ細やかな対応にも感心しました。

さらに、市民文化部交通安全対策室との「交通マイレージ」、教育政策課との「教育マイレージ」、環境政策課との「環境マイレージ」と、「健康マイレージ」のみにとどまらず市内での広がりを見せている姿が、さすが日本一とうたっているだけある藤枝市だと感じました。

J I A M（全国市町村国際文化研修所）の研修で一緒になった裾野市の議員さんにも同様な取組を伺ったのですが、静岡県は歯科医師会との協力を得ている歯や口腔の健康にも先進的に取り組んでいる県ではないかと思われまます。加東市も良い部分は積極的に取り込んで、市民の健康長寿に貢献できる取組を更に充実させていければ、この視察も実りあるものになるので、今後十分考察を重ねて参る所存です。

最後に、ゲートキーパーを市の職員内で養成に取り組んでいる部分は、早急に加東市でも取り入れて頂けたらと強く思いました。

### 【重層的支援体制整備事業について】

予防的取組として中高生に就労コーディネート事業を実施されているのは驚きました。本来なら特別支援学校での取組であるところを市の事業の一環として「転ばぬ先の杖」で行い、少しでも摩擦が少なくなるようにという配慮に思い至るといのが心底すごいと思います。既に学卒で就労につまずいている若者を、どのようにして企業などに繋げていくかが大きな課題となっている部分はどこも同じ悩みを抱えているのだというのが理解できました。

平均年齢の若さ全国1位という、非常に若い世代で構成されている市であるにも関わらず「地区社協」に取り組まれている姿は、勇気を持って新しいことにチャレンジしていく姿勢として、我々も学ばなければならないと深く考えさせられました。

しかし、高齢化率の低さは現在全国3位であるにもかかわらず、約22年後には後期高齢者の人口が2倍となる急速な高齢化の問題も抱え、かつ大学が4つもある羨ましい状況に見えるものの、人口の入れ替わりが激しいとい

う市の特徴がある難しさをお聞きして、何が良いのかは単純にいけない行政の将来を見通し、計画をしていくことの困難さも学ぶことができました。

市長直轄組織の編成や、市職員OBを再雇用し「ぶらぶら職員」と命名する長久手市長のこの重層的支援体制整備事業に対する思い入れや、首長としての心意気に感動しました。

そして「たつせがある課」の存在も素晴らしく、私の所信表明の「市の職員も誇りを持って働く加東市を目指します！」につながる部分があるのではないかと思いつつ、庁舎内を歩きながら考えておりました。

#### 【そ の 他】

両市とも資料の準備、事前質問への回答等も完璧で、非常に有意義な視察でした。関係各所の皆様には感謝してやみません。ありがとうございました。



## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会委員 橋 本 匡 史

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

市民健康づくり運動として昭和43年から健康への取り組みをまちづくりに取り組まれているだけに、いろいろな取組に成果を上げている。

健康マイレージなど以外にもチャレンジシートを設け達成しやすい目標設定にすることでの参加し易さや、各課で取り組むことで市民の行政参加も促進されており、市の取組を市民に理解してもらいやすいと思いました。

健康予防と心の健幸づくりでの自殺対策などや、商工団体など連携なども非常に参考になりました。

### 【重層的支援体制整備事業について】

縦割り組織の弊害を少なくするために市長直轄組織を新設され取り組まれているのが素晴らしい。

地域の課題を地域で解決するためのいろいろな取組をされ、課題解決に専門性を必要とし過ぎず、いろいろな人が関わり地域の力を信じ、地域福祉を考えると聞き、難しい課題は専門的な知識が必要と考えていたので気づかされました。

厚生労働省からの出向の担当者がいることも羨ましく思いました。

### 【そ の 他】

藤枝市も長久手市でも資料やパワーポイントなどを使い非常に分かりやすく説明をいただきました。

担当者の熱量も伝わり、大変勉強になった2日間でした。

市が方向性を明確にし、市民参加で取り組まれていることは共通していると思います。地域連携がカギになると思いますので加東市でも参考になる内容だと思いました。

## 行政視察報告書（所感）

産業厚生常任委員会委員 中 村 龍 治

### 【“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトについて】

健康ウォーキングについて多くの企画があり、またアプリの導入も取り入れて健康に対しての取組・活動がしっかりなされていると感じました。

また、保健委員の活動について地区担当職員が配置され役員・自治会・町内会の連携で市民と共に全体での取組が素晴らしいと思いました。

### 【重層的支援体制整備事業について】

市民主導のまちへという事で、市民会議をはじめ多くの交流の場を提案・実行されていることで住民と共にまちづくりを進められていると感じました。

社会福祉協議会においても縦割りの弊害を少なくするという事が必要という考えで、全体で重層的支援体制を進めているという考えに共感しました。